

栃木県 JAうつのみや越冬トマト専門部

JGAP



OGAP手法取組の概要

平成19年7月に越冬トマトにおいてJGAP認証取得への取組を決定。JGAPの129項目の適合基準に基づき、安全な農産物や作業者の安全、また、環境への配慮のためのリスクを検討し、ハウス作業場の片付けや危険箇所等への掲示、作業内容等の記帳を実施。また、栽培基準や残留農薬が出た場合等、万が一の事態に備え、これらに関するルールをまとめたマニュアルを作成。

OGAP手法導入のきっかけ、経緯

「産地の売り」を作るため、第三者認証制度をとっているJGAPを、いち早く導入。

OGAP手法導入に関し、工夫した点等

生産者にイメージを掴んでもらうため、会議だけでなく、現場研修会や視察を実施。また、生産者の負担を減らすためJA、県で連携し、内容をかみ砕いてわかりやすい資料を作成し、説明。

OGAP手法導入によるプラスの効果等

- ・日々のチェックだけでなく、片付け等を徹底し作業環境を改善しているので、圃場が整備され作業の効率化が進んだ。
- ・組織の団結や自信が強くなり、積極的な意見が多数出るようになった。
- ・「GAP手法のチェック項目に記載されていることは当たり前のこと」と、生産者の意識が変わった。
- ・取組のPRにより、新しい販売先との交渉が増えた。

○実践者からのコメント

- ・認証までの期間は大変だったが、終わってみると当たり前のことを当たり前にやればよいのだと分かりました。
- ・今まで気付かなかった生産・作業上のリスクにも気づき、改善できました。また、作業がしやすくなりました。
- ・一番大きなメリットは、第三者から安全で安心な信用力の高い生産者として認識されたことです。高い安全基準で農産物を生産している産地としてPRし、積極的に販売を拡大していきたいと思っています。

